

## 内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

- ⑩ 古代における「偉人」について?!その偉人（英雄?神?）には、歴史が示（or 隠）されている?!
- I：さて、ここでもまた、まったく突然となりますが、いわゆる古代史における「偉人?」については、どのように考えますか?例えば、かの「聖徳太子」とか、あるいは「大国主命」とか…
- D：もちろん、時代時代には、生身の人間社会があったわけですから、富や豊かさ、あるいは安寧を求めて集団をまとめ、定住したり、移動したり、ある時は戦ったりして、まさに「英雄」として崇められ、後世に語り継がれてきた人達がいた（→「神」「命」「尊」）?!そういうことですよ?!
- I：ただし、そうだとすると、今の我々には、そのことは、直接は分からないし（ウソかホントかも含めて!）、これからも知る由はない?!彼らは、いわゆる「史書」（「記紀」や「風土記」等）や各地（神社や古老達）の「言い伝え」を通しての人物（神?）ですから、それ以上のことは何とも言えない?!しかし、それらの「解釈」や「遺物」等（遺跡からの発掘物等）から、それなりの類推は出来る?!
- D：まあ、そういうことですが、改めて、そこで重要なのは、その人物（神?）のことを示すもの（場合によっては隠されたもの?）が、そこにはあるということです!だから、その真偽も含めて、いつ、どこで、誰が、どのような目的で、それをつくったのか、書いたのか?そこが問われる?!
- I：しかし、そうではあっても、それらの、言わば「正当な解釈（「定説/通説」）」も、すべてが真実だということは、永遠に?言えない（たとえ専門の学会等のそれであっても!）?!ましてや、意図的な捏造や誤誘導も、生身の人間社会ではあり得ますからね（事実あったし、これからもある?）?!
- D：残念ながら、そういうことでもあります。けれども、そこから何も進めないとも言えない?!実際、そうした確かな真実を求めて、人知れず（私が知らないだけ?）奮闘している人達がいる!最近、そういう人達のサイト（古代史自由サイト「Ameba」ブログ?）に入り込んで、頭の中がぐちゃぐちゃ（これまで知らなかった「神」がわんさという!→例えば「大幡主<sup>おおはためし</sup>命」※榑田神社の主祭神）?!
- I：それは何ともお気の毒ですが、そうは言っても、ずーと傍からみていた私からすれば、Dさんは、関裕二さんの論（膨大な著作!）を核に、兼川晋、藤井耕一郎さん等の所論を組み合わせて、それなりの解明枠（九州王朝と近畿王朝の相互連環説?）を模索されていたようにも思うのですが…?!
- D：確かに、そうなのですが、そこに新たな要素を加える必要がある!それがないと、やはり全体的（整合的）な説明が出来ない?!それらのブログを見て、今は、そのように思い始めているのです!
- I：改めて分かりましたが、実際それは、具体的には、どういうことなのですか?
- D：端的には、九州（倭国）王朝と近畿（大和）王朝との関係を考える場合に、北部九州（倭奴国/伊都国/邪馬台国/木・基肆（貴?）国）だけではなく、中南部九州（狗奴国、熊襲<sup>→球磨曾於</sup>）の関わりを加えなければいけない（かの「武内宿禰（諸族）」や「姫→紀氏」「鴨族」「隼人族」が絡んでいる?）?!
- I：ひょっとしたら、九州中南部（南方系）は、通説に言う「蛮族」あるいは大和朝廷に従わなかった勢力ではなく、実は双方の王朝に関係がある?!否、むしろある時期、「倭国」全体を席卷（支配?）していた?!だから、ある意味正統な勢力（原皇統につながる?そのため、後の大和政権、つまり朝鮮半島からの「百濟」中心勢力から疎まれ、歴史の闇に葬られた?）?!そういうことも考えられる?!
- D：まったくその通りです?!だから、先日の大発見（奈良県の「富雄丸山古墳/最大円墳、4世紀後半」）で、マスコミ等は騒いでいるようですが、そこから出た「蛇行剣」「鼉<sup>だ</sup>龍文盾形銅鏡」（いずれも国内最大!）は、ひょっとしたら、「熊襲<sup>→球磨曾於</sup>」あるいは「隼人」の偉人（英雄）と関係があるのかもしれない（根拠もある?）?!だから、これまでのように、「百濟」や「新羅」、そして身近な「伽耶」との関わりだけで、我が国の古代を捉えてはいけません!つまり、南方系（直接は「呉/越」）の要素も、改めて目配りをしなくてはならないということです（ある意味当然であるが!）?!（つづく）